

師範・一般受験昇試課題

張遷碑 (師範)

※この中より字数・句切れ等を考えて書くこと

(昨年度十二、一、二、三月号)
古碑法帖掲載部分に限る

12月号

此重上從言
孝孟時有張
騫廣通風俗

開史纂寓南
管人西蜀
六我非虞王

續戎馬緒
守相係不
高問孝弟於

家中嘗於朝
治京氏參聽
麗權略藝於

1月号

秋策勸九夷
荒遠既殞各
貢所有張是

輔漢世載其
德矣既且於
君蓋其纒纒

從畋少為郡
吏隱練職位
常在腰膝數

為從事嚴
細聞徵拜
中除嚴城長

3月号

智永千字文 (師範・一般条幅部)

※この中より字数・句切れ等を考えて書くこと

(本年度四、五、六、七月号)
古碑法帖掲載部分に限る

4月号

福陽雲騰致雨露然為和
生麗水玉出崑崙初輝
玄羅珠綺散光華珠李素
篆重篆蓋海嶺河漢瀾浩

羽翔於火帝為甘人皇
始第文字乃叙衣冠指位
讓國有聖唐唐平戎代飛
周友取海山相問道重於

難量量世孤孤寂寞漢華
景行惟矣刻之化世治建
名立孤渾素正望名傳聲
唐聖智初福因忘後福祿

善受又聖世實寸位是歸
項父乎天曰龍王亦存留
竭力忠男忠女忠後為
風無泥清以榮新聲如松

6月号

5月号

才華重寶樂為出供我美
通志志遠廣實陽王雷風
宜梅日初化地化被草木
振及萬方善法手腹四火

王為善性難善性難取
為善貞潔男取士已已
必取日取善立西漢收
鹿坊上長以父可取不

之德川流不息湖池取暖
守之為思主善安之善初
味美恬靜且仁榮一系以
藉古聖善學但世仕操練

從政善以甘榮主而善
示群貴師禮為善早仁和
六睦友眼婦德外更傳訓
入孝母儀法姑伯子

7月号

句 語 作 創

師範部

釈文Ⅱ生逢盛世憂何事 家在青山道自尊（孫一元）

よみⅡうまれて せいせいに あう なにごとをか うれえん いえは せいざんに ありて みち おのずから とうとし
大意Ⅱ生を太平の世にうけ何事にも憂いはない。家は青々と樹木のしげっている山にあり、道は自然に尊く思う。

逢盛憂何事家在青道尊

逢盛憂何事家在青道尊

一般条幅部

釈文Ⅱ詩書作我閑中地。風月知人醉裏天。（不詳）

よみⅡししよ わが かんちゅうの ちを なし、ふうげつ ひとの すいりの てんを しる。

大意Ⅱ詩や書物は自分の閑中の境地となり、清い風や明るい月は人の酔時の事を能く知ってくれる。

詩書作我閑地風知醉裏

詩書作我閑地風知醉裏

※ わかりにくい字を「角川・書道大字典」等から拾いました。参考にして下さい。

※ 師範部は、張遷碑・智永千字文・創作語句を楷・行で計四種を書き、出品のこと。

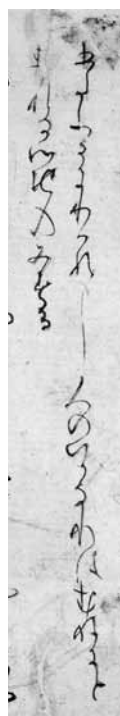
一般部は、智永千字文・創作語句を楷・行で計三種を書き、出品のこと。

題 課 試 昇 驗 受 範 師

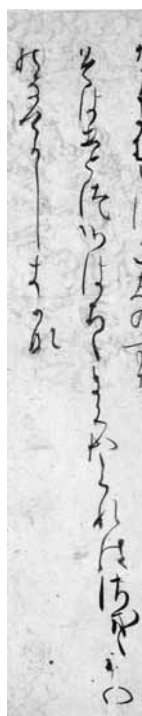
① 和泉式部続集切

（昨年度十二、一、二、三月号古筆
かな条幅手本部分からに限る）

12月号



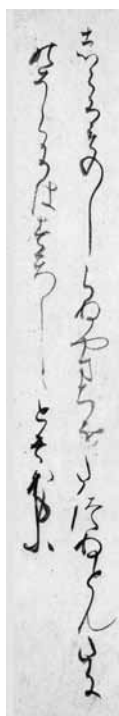
1月号



2月号



3月号



創作語句

② 《短歌》

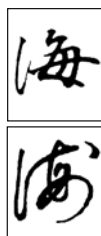
潮光^{しほひか}る南^{みなみ}の夏^{なつ}の海^{うみ}走^{はし}り

日^ひを仰^{あふ}げども愁^しひ消^けやらず

（若山牧水）

大意Ⅱ海面が輝く南の夏の海辺を走って太陽を仰ぎみても、物悲しきは消えることはない。

海



愁



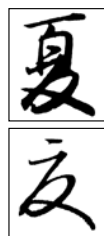
③ 《俳句》

はすかひに渡^{わた}舟^{ふね}ただよふ夏^{なつ}の河^{かは}

（志城 柏）

大意Ⅱ渡し舟が斜めに漂っているなあ、夏の河に。

夏



※・印は必ず漢字を使用のこと。

※「二玄社 和様字典」「角川書道字典」などから拾いました。
参考にして下さい。

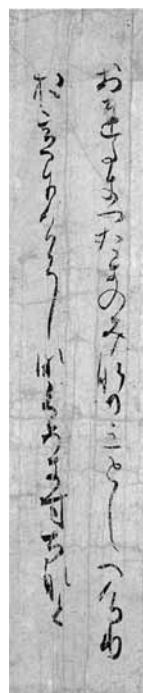
※師範受験者は①②③の三種を書き、出品規定を熟読の上
出品のこと。

一般条幅部

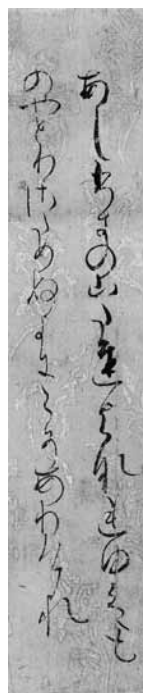
① 本阿弥切

（本年度四、五、六、七月号
古筆かな条幅手本部分に限る）

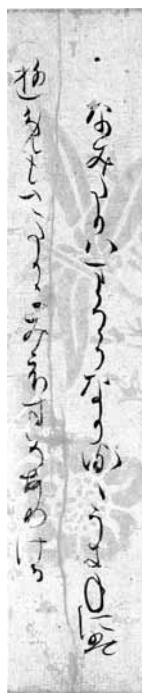
4月号



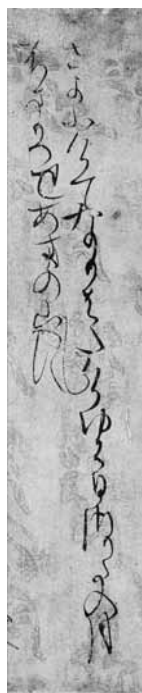
5月号



6月号



7月号



創作語句

② 《短歌》

筆の穂^{ふで}の細^{ほそ}きを見^みれば春^{はる}の夜^よの
しづけき思^{おも}ひ極^{きは}まるごとし

（吉井 勇）

大意Ⅱ筆の穂先の細さを見ると、春の夜の静かな思いが極まるようだ。

春



思



※・印は必ず漢字を使用のこと。

※「二玄社 和様字典」「角川書道字典」などから拾いました。
参考にして下さい。

※一般条幅部は①本阿弥切・②短歌の計二種を書き、出品
規定を熟読の上出品のこと

半 紙 部 昇 試 課 題

= 創 作 =

楷書Ⅱ雲騰致雨
行書Ⅱ雲騰致雨

釈文Ⅱ雲騰致雨
読みⅡ雲は騰^{のほ}りて雨を致し、

= 臨 書 =
真草千字文



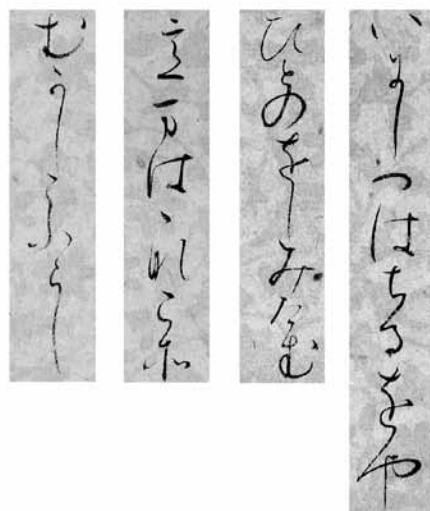
(4月号図版の中より)

〈漢字〉

= 創 作 =

= 臨 書 =
近衛本和漢朗詠集

〈かな〉



※4行に書くこと

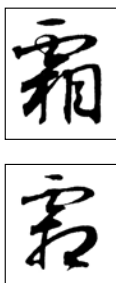
(全書芸 '20.4月号)

よみⅡ古^{いにし}へは散^ちるをや人^{ひと}の惜^をしみけむ
いまは花^{はな}こそむかし恋^こふらし
大意Ⅱ昔は主人が桜の花の散るのを惜しんだのであったろうが、今では花の方で主人在世の昔を恋しく思っているらしい。

《短 歌》此^この朝霜^{あした}しろくしておのづから

泉^{いづみ}の音^{おと}に春^{はる}きたるべし (土屋文明)
大意Ⅱ今朝は霜が白く降りて、自然と泉の音に春の訪れを感じることだ。

霜



※・印は必ず漢字を使用のこと ※計二枚を書いて出品のこと
※「二玄社 和様字典」「角川書道字典」などから拾いました。
参考にして下さい。
◎作品の左に、支部名・現在級・氏名を書くこと